

【2020年度 学生向け配布文書】
まちづくり提言コンペ（オンライン版）実施にあたって

名古屋学院大学社会連携センター

1. 新型コロナウイルス禍のなかでの「まちづくり提言コンペ」実施の意義

新型コロナウイルス禍のなか、対面授業が行えないまま学期が開始して、この間、学生の皆さんには慣れないオンライン環境での学習で不便をおかけしました。6月1日に本学教務部より発表があり、6月15日以降の授業において、「基礎セミナー」など一部授業で対面授業を認めることになりましたが、感染拡大防止のため、今後もさまざまな規制が続きます。日本政府も「新しい生活様式」¹を発表し、感染症の危険に対応した行動を求めています。大学における学修活動もその下で行わなければなりません。

名古屋学院大学の「まちづくり提言コンペ」は、毎年「基礎セミナー」の履修者を対象に、本学が立地する瀬戸市・名古屋市熱田区の歴史や現状を学んだ上で、学生の眼からまちをより良くするために、大学と両市区行政の協力の下で行ってきたイベントで、これまで多くの優れた提言がなされてきました（過去の提言については基礎セミナーテキストを参照）。

本来であれば、基礎セミナー指導教員の下、教室でテキストに基づいて地域について学ぶだけでなく、実際にまちを歩いてフィールドワークを行い、そこで観察したことをもとに提言作成にとりかかりますが、6月15日以降の対面授業においても、感染拡大防止のため、教員と学生が学外で教育・調査活動を行うことは大学の方針により禁じられています。そこで、本年度はオンライン環境で両市区のまちの成り立ちや現在の課題について学べるリソースを提供して、この提言コンペを実施するように変更いたしました。

まちの現場をほとんど体験できずにまちづくりを提言することは困難に思えますが、感染症の危険の中であっても、私たちは日々の生活を営み、経済活動を行っていかねばなりません。また自治体も民間の個人・企業・市民団体もこの困難の中で、どうやって私たちの暮らしとまちを守っていくかは大きな課題です。むしろ、このような社会状況であるからこそ学生の皆さんからの提言が大きな意味を持つと考え、「まちづくり提言コンペ」を実施いたします。皆さんには両市区のまちづくり提言を広い意味で捉えて挑戦していただきたいと願っています。なお、まちづくり提言は瀬戸キャンパスで学ぶ学生は瀬戸市への提言を、名古屋キャンパスで学ぶ学生は熱田区への提言を作成することを原則といたします。

¹ 厚生労働省「新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」を公表」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_newlifestyle.html

2. 提供したオンライン資料とその説明

付属資料として、本学のキャンパスがある愛知県瀬戸市と名古屋市熱田区の歴史や現状がわかるインターネット上のリンク集を作成しました。これらのリンクをクリックしてオンライン環境ではありますが、まちの様子やその成り立ちを探ってみましょう。現在、ソーシャル・ディスタンス（社会的距離）を保つため、大学の講義だけでなく、まちのイベントや行政手続等、社会活動のオンライン化が進められています。両市区のオンラインでの情報発信を観察するために活用してください。

2.1 まちづくり提言コンペ参考リンク集【愛知県瀬戸市】

ここでは、行政の情報発信である瀬戸市の市政情報・生活・まちづくりに関するページのリンクがあります。市政に関する基本情報や瀬戸市の産業、まちづくり活動を行っている住民団体の情報のほか、公式 Facebook ページなどソーシャル・メディア（SNS）からの情報発信もあります。また、瀬戸市の観光・歴史・文化について写真や映像で伝えるページも紹介しています。陶都としての長い歴史を持つ瀬戸市の奥深い姿を垣間見ることができます。

2.2 まちづくり提言コンペ参考リンク集【名古屋市熱田区】

こちらは、名古屋市熱田区の市政情報・生活・まちづくりをまとめた熱田区行政のホームページやソーシャル・メディア（公式 Twitter や Facebook）のリンクが紹介されています。熱田区のホームページでは区のプロフィールや魅力が多様な項目で紹介されています。「熱田区の魅力一覧」のページでは、名古屋市内の歴史・文化資産などを紹介するスマートフォン用アプリケーション「なごや歴史探検」²の紹介もあります。また、区の観光・歴史・文化について行政や各種団体が設けているホームページや動画サイトの一覧をつけました。熱田神宮や東海道の宿場町として栄えた熱田の現在に至る歴史がわかります。なお YouTube チャンネル「まるはっちゅ〜ぶ」と「2010Network」ではたくさんの動画資料が登録されており、リンクしたものの以外にも動画一覧から熱田区に関する貴重な映像資料がオンラインで閲覧できます。

3. まちづくり提言の視点

これらオンラインの資料をもとに、どのようにまちづくり提言を行うのか？ ここでは、提言にあたって注目してほしいポイントをいくつか紹介します。あくまでこれは例であり、

² スマホ用アプリ「なごや歴史探検」紹介ページ（iOS/Android 端末向けにインストール可能）
(<http://www.city.nagoya.jp/atsuta/page/0000065575.html>)

提言をどのような発想で行うかは、基礎セミナー担当教員の指導を受けるものの、皆さんの自由です。オンライン環境のもとでまちづくり提言をどうすべきか悩む方へのヒントとして記します。

3.1 自分の住む街と比較しながらオンライン資料から熱田と瀬戸の課題を考える

熱田と瀬戸の現場を見ることができませんが、基礎セミナーテキストには両市区について学ぶパートがあり、提供したリンク集では両市区の歴史や魅力を伝えるページがあります。皆さんが当初持っていた両市区のイメージとテキストやオンライン・リソースで見ると両市区の姿はどう違っていたでしょうか？ なお両市区の紹介した役所のページには行政の総合計画や将来ビジョンの資料があります。皆さんの暮らすまちと比較して両市区には何が豊かにあり、何が足りないのか考えて、まちづくりの提言をしてみましょう。なお、提供したリンク以外にも「瀬戸市」や「熱田区」というキーワードでウェブ上を検索したり、Twitter 上で#（ハッシュタグ）をつけて「#熱田区」「#瀬戸市」と検索すると、まちの姿を伝える情報がたくさん見つかります。

3.2 オンライン化が進行するまちを考える

新型コロナウイルス禍のなか、学校、大学や会社はオンライン授業やテレワークを進めなければならなくなりました。市役所、区役所など行政活動も同様です。「新しい生活様式」が求められ対面での活動が制限されるなか、行政や各種団体の情報発信やオンラインでの各種手続きは、市民にとって重要となりますが、リンクにあった両市区の情報発信は、市民にとって必要な情報をわかり易く伝えているのでしょうか？ オンライン化・デジタル化の進展は十分でしょうか？ また行政は皆さんもよく利用するソーシャル・メディア(SNS)を活用していますが、その内容は私たちの関心を惹き付けるものになっているのでしょうか？ 行政や各種団体のホームページや SNS をより魅力的にするにはどうしたらよいでしょうか。こんな視点から、まちの情報発信のあり方やオンライン化の進展を検討し、どんなスタイルが望ましいか提言してみましょう。

3.3 オンライン化と社会的距離の陰で失われるもの考える

「新しい生活様式」を導入して社会的距離を保つことや社会活動のオンライン化が進むことでまちの姿は大きく変貌しました。公共施設や観光名所の運営の再検討、地域のまつりや商店街の対面イベントが中止を余儀なくされ、瀬戸や熱田の活性化に打撃を与えています。感染症の危険のなか、まちの活気を維持するためにはどんな事ができるのでしょうか？ また、対面の機会が減少し、社会活動のオンライン化が進むことで、情報機器をうまく使いこなせない人々や、必要な社会情報から取り残されてしまう方もいます。オンライン化で失われるものに注目して、どうやってまちの活気を取り戻し、誰も取り残されないまちをつくったらいいか考えてみましょう。